

はし が き

東洋史研究會前會長、羽田亨博士が逝去されてから早くも二年有餘の歲月が流れた。先生は生前から、諸雜誌に發表された研究論文を訂正増補して纏めて出版したい意向を持つて居られ、抜刷、切抜などを整理し、本文を筆削し、欄外に書入れを加えて居られたが、先生の公務の多忙と、度々の重い疾患とがその實現を妨げていた。先生が道山に歸せられてから、門弟の間で先生の遺志を繼承して、この出版を完成したいとの議が起り、令息明君に原稿の蒐集を依頼する一方、出版の方法についてその可能性を検討して見た。祖國日本も戦後十餘年となつて、敗戦の傷痕を幾分恢復したとは言ふものの、儲かる見込みのない學術圖書の出版事情は依然として改善されていない。特に先生の書かれたものは、どこにもない漢字、ギリシア文字を交えた歐文の綴りに多種多様な符號が加わるので、到底算盤にあう出版企業にはなりそうもない。一方、令息明君による原稿の蒐集は大方完了したので、いつそ東洋史研究會の事業として先生の遺著を世に送りたいと考えた。そしてどの機關、どの書店から出版するよりも、我々の東洋史研究會から出版することが一番先生の遺志に副うことになるだろうと衆議一決した。